



第 148 号 (2013)

〒733-0032 広島市西区東観音 8-10

ワールド・フレンドシップ・センター

理事長：山根美智子 館長：ラリー&ジョアン・シムズ

TEL (082) 503-3191

FAX (082) 503-3179

E-Mail: wfchiroshima@nifty.com

URL: <http://www.wfchiroshima.net/>

韓国 PAX

山川剛



(農民健康管理施設にて)

1998年に WFC からアメリカに行かせてもらった。今回、図らずも韓国行きをいただいた。前回は 61 歳と若かったが、今回は 76 歳の後期高齢者で筋金入りの「英語音痴」であることがメンバーには足手まといだが、厚かましくも敬老精神に期待して韓国行きを決心した。平和使節団は理事長の山根美智子さん、渡辺朝香さん、菱輪伸一さんの広島組と、長崎の山川剛。以下は日程に添った詳細な報告ではなく、個人的な感想の域を出ない点、ご容赦願いたい。

初日の 3 月 15 日(金)、インチョン空港で今回お世話になる KOPI(KOREA PEACEBUILDING INSTITUTE)の責任者・Jae Young さんらの出迎えを受け、すぐに最初の訪問地テジョンに向かう。空港から 1 時間でソウルを抜け、さらに 1 時間かけて到着。クンス中学校玄関の案内板に「村共同体調印式、教育官との懇談会」とある。平和構築のための平和学習プログラムをこの中学校で実施する調印式が行われる日に、私たちは居合わせるようになったようだ。学校案内のリーフレッ

トに「学びと思いやりが生きる村共同体平和学校」とある。村の教育長も出席して校長以下学校、地域の関係者によるセレモニーである。学校と地域が連携して平和教育を実施することに民間の平和団体 KOPI がしっかりかみ合っていることがすばらしい。一年間の教育課程を知りたいものだ。私たち 4 人は紹介されたあと教室に移動して 30 人くらいの中学生に初めてのプレゼンテーションをした。私が被爆体験を、山根さんが紙芝居を使って WFC の活動を話した。

次に村の公民館ふうの施設に移動。「農民健康管理室」の大きな表札。ここで 2 回目のプレゼンをする。農業に従事する老若男女約 80 人が聞き手である。「センセイ、ハタ アル？」と、かつて私に問いかけたチョン・ジンソク君と学級の親子の交流、日韓の歴史教科書に見られる歴史認識の大きなギャップ、その溝を埋めるための韓国平和の旅などをはじめに話した。そのあと被爆体験を語った。年配の男性がすぐに発言した。「韓国の国旗や教科書についての話は感動的だが、被爆体験の話は日本ですればよい。そんなことは知ってるし、ここではいらぬ。被害者として来ているようだが、韓国人にとっては加害者が来たことなんだ。」という趣旨のようだった。厳しい指摘に緊張が走る。4 人で「故郷の春」を歌った。私は知らない歌だったが、韓国で知らない人はいないという。そこで出発前夜に広島で“特訓”を受けて何とかなぞれる程度にはなっていた。歌い終わったとたん、先ほどの男性が感情をむき出しに激しい口調で非難した。女性の通訳は、あまりにきつい言葉は私たちには伝えなかつたらしい。周りの女性たちは顔をしかめ、口々に彼を諷めるようにしていた。「日本語で歌うな！」と、ここまで来てこの歌を日本語で歌ったことにも強い不快感を抱いたのだった。しかし、この時私はまだこの事態の真意を理解できなかった。すると 80 歳をとうに超えた老人が穏やかに、しかし情熱的に反論というか説得してくれた。「朝鮮半島から日本にこれまでいかに多くの者たちが渡っていったか、歴史を見れば明らかだ。日本人の祖先の多くは半島の人間だから日本もこのこと同じ故郷ではないか。将来に目を向けよう。」どちらもやり取りを繰り返した。この老人は、KOPI の責任者の父親だった。よかれと思って歌った「故郷の春」の一件を 3 人目のホストのイーファン先生に話した。「あの歌は、韓国人にとっては悲しい歌です。故郷が日本に奪われていたとき、色とりどりの花が咲き乱れる野原や川辺で遊んだ故郷の日々をなつかしむ歌なのです。」と教えてくれた。そうだったのか。「歌う」は「訴う」なのだ。歌が生まれるには、それなりの背景があることを改めて教えられた。

今夜泊めてもらうホストを紹介された。菘輪伸一さんと私は、懐中電灯に導かれて会場から 50m くらいのお宅に案内された。自分たちのダブルベッドを明け渡してお二人は床に寝られた。夜中にトイレに立ったときそれが分かった。私たちは男同士で、落ちそうになるくらいにベッドの両端で寝ていた。

16 日(土) KOPI のスタッフに自然公園(人工的に整備された湿地)に案内され朝の散策を楽しんだ。心身ともにリフレッシュ、爽快。頃合いを見計らって「ナムム(分かち合い)の家」を訪問した。日本軍「慰安婦」歴史館に入る。まず、訪問者は第一展示場「証言の場」で戦時の性奴隷の実態を

ビデオ視聴し、日本軍「慰安婦」問題とは何かを学ぶ。歩いて第四展示場まで移動しながら日本軍の所業、水曜集会について、ハルモニ(おばあさん)たちの作品・遺品などを学ぶ。歴史館を出て、かつて従軍慰安婦だったハルモニたちの共同生活の場所に移動する。平均 87 歳のハルモニたち 7 名が余生を送っている。それぞれ会話を交わす。強制されて身についた日本語で話を聞く。私は 90 歳を超えたというハルモニの話聞いた。朝鮮戦争後、水商売の知人を頼って渡日。東京、名古屋をはじめ各地のキャバレーなどで演歌を歌って生計を立てていたという。たくさんの流行歌を歌えるという、この時は「与作」を小さな声で歌ってくれたが、かつて「歌姫」だったというのは間違いのない歌いっぷりだった。演歌を歌うと日本が懐かしくなる、と目を細めた。日本大使館前で 1992 年から水曜日ごとに行われている抗議活動のことをさして「あそこまでしなくても…」と辺りを憚って耳元で囁いた。それぞれに複雑な思いがあるのだろう。

ソウルに移動し市内観光。1995 年 8 月に、学級の親子とチョン君をソウルに訪ねたとき見て回ったことが思い起こされた。とくに景福宮の勤政殿が印象に残っていた。95 年当時より大きく立派に見えたのが不思議だ。宮殿を隠すように朝鮮総督府は立ちはだかっていた。韓国で主権を回復したという意味の「光復」、その 50 年を機に総督府の建物を撤去した。いま、跡地には博物館が建てられていた。ソウルの大通りに米国の大使館があった。その 1 つ目の裏通りに日本大使館はあった。その建物を周囲の高層ビルが取り囲んでいた。大型の警察車両が 3 台大使館前に駐車されていて、道路の要所には警官が配置されていた。大使館を見つめるように慰安婦にされた少女の座像があった。その視線の先の日本大使館は撮影を警官に阻止された。独島(日本名・竹島)に関する横断幕が鉄柵に結わえてあった。「再侵略」の文字が刺さる。

夕食は KOPI の皆さんに韓国料理のレストランで焼き肉をご馳走になった。サプライズがあった。2009 年にわが家にステイした李(イ)さんが同席して私の左に座ってくれた。勿論スタッフの粋な計らいだった。当時脱北後で、名刺には韓国の「統一省」とあったが、今は 33 歳の報道写真家になっていた。右隣は、昨日熱心に説得活動に当たった老人だった。日本については驚くほどの博識である。いわゆる知日家だ(韓国では“親日”は売国と同義語らしいので禁句)。「勝海舟がクリスチャンだったことを知っていますか？」に始まり、単行本『イエスに出会った僧侶』や牧師・賀川豊彦のことなど次々にプリントを示しながらの熱弁が途切れぬ。見かねて息子の Jae Young が注意したくらいだった。紙袋にこれらを戻し、「この本は 1 冊しかないのを読んでから感想を添えて私に送り返してください」と、ものすごい宿題をもらった。聖書を英語で読むのが一番いいから読みなさい、とも。これは不可能と聞き流す。私が前日、ミッションスクールで授業していると言った一言がもたらした結果であるに違いない。後日、返送すべき本を読んだ。僧侶から牧師への経緯も興味深くはあったが、名ばかりの仏教徒の私には「仏教とは何か」という初めての仏教入門を面白く読んだ。勝海舟が、死の二週間前に、「私はキリストを信じる」と信仰の告白をしたことを初めて知った。咸臨丸船上でオランダ人たちが賛美歌を歌い聖書を朗読する光景に勝海舟は心を動かされた。外国の賛美歌を最初に邦訳したのも彼だった。1860 年に遣米使節団としてサンフランシスコ

に着いたとき、毎週のように現地の教会の礼拝に出席したという。百済や高句麗、王仁と阿直岐といった古代の日韓交流に関する数ページのコピーをみると、昨日の猛烈なクレームに対する静かな説得の拠り所は、このあたりの素養にあると納得した。1955年12月の毎日新聞のコピーもあった。「李承晩大統領に訴える」と題する賀川豊彦の文章だ。クリスチャンの大統領に、同じキリスト教徒として「李ライン」による日本人漁師の窮状を訴え、日本書紀に見る韓国民の日本への移民史を例に引きながら、当面の海洋の問題を解決し、日本との平和な関係を築く努力を「閣下の良心に訴え」たのである。このように、韓国料理店で一夜は、キリスト教の面から日韓関係を考える貴重な機会になった。

17(日) ジーザス・ヴィレッジ・チャーチで長い長い行事のあとにプレゼン。「教会のお知らせ」のトップに「原爆被害者による証言に感謝申し上げます」とある。仏教徒として定期的な集まりの経験がないものから見ると、教会が地域の人たちを結ぶ生活の拠点であることを体感した。私たちの通訳をしてくれた先生が二晩お世話になるホストだと分かって大いに安堵した。イーファン先生は、東北大学に留学し、4年間仙台市で暮らしたと聞いて流ちょうな日本語の訳が分かった。朝は2日ともパン、ヨーグルト、サラダ、珈琲とお客さん扱いではないのがとても居心地がよかった。



(日曜礼拝に参加)

18日(月)。非武装地帯(DMZ=Demilitarized Zone)に行く日。韓国の北緯38度線付近から東西約248kmで軍事境界線を中心とした両側2kmの非武装エリアである。韓国と北朝鮮が実効支配する地域を分割する場所だ。軍事境界線であって国境線ではない。軍事境界線近くの町村の住民は税金が免除されているとのこと。危険覚悟の生活を強いられることへの代償措置だろう。非武装地帯に入るためにパスポートなどを提示して登録をしなければならない。周りを見ても私たち以外

人影がない。「すみません！月曜日は役所が休みでした。」と KAC(韓国アナバプチストセンター)スタッフ。残念。それでは、と世界で3番目に大きいという「世界平和の鐘」を見に行くことになった。1時間半、車に揺られて到着。世界30カ国に呼びかけ、29カ国から届けられた銃弾の薬莖を溶かして造った平和の鐘である。貧しい子どもたちの奨学金に充てられる鐘撞き料を払う。1回目は南北統一、2回目は宗教紛争の解決、3回目は民族紛争の解決を願って撞いてください、とガイドのおばさんに指導されて撞いた。ここを訪れたゴルバチョフ元ソ連大統領などノーベル平和賞受賞者の写真があった。平和実現にかけける韓国と世界の良心を見ることができた。

韓国 PAX に係わってくださった全ての皆さん、カムサ(感謝)ハムニダ！

韓国PAX

WFC 理事 菱輪 伸一

2013年3月15日金曜日、朝の11時を過ぎた頃、韓国の山々の上を飛行機はインチョン空港に向けて高度を下げて行く。なんとなく見慣れて懐かしさを感じる水墨画の中の風景そのままの場所に韓国に来たんだ、と言う実感がわいてきた。この度初めてPAXでの韓国訪問のチャンスを頂き、被爆者でもなく、WFC に長年関わって来た訳でもない私は、これから WFC のお手伝いを一生懸命させて頂くんだと言う強い気持ちだけであつましく参加させて頂いた。



(「世界平和の鐘」にて)

おおまかな日程と訪問先での思いがけない出来事など、今回一緒して頂いた山川先生の方からいろいろと報告がなされているので、ここでは私の個人的感想だけにさせていただきます。最初の訪問先クワンズ中学校では山川先生の被爆者体験と山根さんの紙芝居のプレゼンで終わり、私の出番がなく内心ホットする。プレゼンが終わり、最後の挨拶が終わると生徒さん達が一人また一人と私達のそばにやって来てジュースやキャンデー、チョコレートを手際よくおじぎをしながら渡してくれたのが印象的だった。先生や目上の人達を敬うという道德教育がここではまだまだ実践されている事にチョット、ホットした気分になった。その後無農薬のトマトをメインに栽培してい

る村でのプレゼンテーション。ここでも山川先生のプレゼンと、その後渡辺朝香さんの指揮での歌の披露。村の集会所には小さな子供達から結構なお年の方々三世代にわたって家族中で参加して頂いている印象であった。最後に村中のお母さん達が皆で分担して作ったであろうたくさんの料理を少しずつ小皿に取り分けてごちそうになった。70~80人は参加されていたと思う。平和に対してのこれだけの集まり、またこの集まりを取りまとめて頂いたKOPIの方々、責任者のJae Youngさんには感謝しつつ、これ程の人々が我々WFCの4人のメンバーを歓迎して頂いた事には正直感動させられた。

16日(土) ソウルの市内を流れる Hangang という川を自然の力で浄化させる目的で人工的に作られたという湿地帯を、散策出来るように取り囲んで出来た自然公園を訪れた。冬になると遠くシベリアから渡り鳥が越冬にやって来るらしく、その鳥達をやさしく迎えるために鳥の形をした造形物を先端に取り付けた長い棒を何本も湿地帯の周りに見ることが出来た。鳥が集まる場所は神聖な場所である、ということからかその長い棒は鳥達にとっての玄関の意味合いがあるらしい。「日本でも神社に入る時は鳥居をくぐってはいるでしょ？」と言われ、なるほど鳥居の文化、言葉はここから来ているのか、と感心してしまった。

朝の散策の後には、元従軍慰安婦という悲しい体験をされた方達が生活を共にされている、「ナムムの家」を訪れた。慰安婦の歴史観やビデオの視聴の後4人の元慰安婦の方達と会う事が出来た。一人の陽気で話し好きな90歳を過ぎてるといっておばあさん以外とはこちらからあまり話かけられず最後に「お元気でくださいね。」としか言えなかった。渡辺朝香さんが涙声になっているので、私も不覚にも涙が出そうになってしまった。地元の高校生らしいグループが勉強に来ていた。この場所をみて日本人を恨まないで欲しい！戦争を恨んで欲しい！と願わずにはいられなかった。

17日(日)ジーザス・ヴィレッジ・チャーチへの訪問。ここで初めてWFCの事をパワーポイントを使ってプレゼンをさせてもらった。後で笑われてしまったけど、クリスチャンでもないのに、隣にいた人に手をつかまれて洗礼もしてないのに、パンをワインに付けて食べる儀式にまで参加してしまった。その夜と次の夜二晩 KAC のリーダーKyong Jung Kim さんのお宅に泊めていただいた。どうもまだ私自身 PAX の代表で来ている事の自覚が足りなかったのかホームステイでお世話に成る事に慣れてないのか、夕食が終わると二人のお子さんがあるご家庭の団欒の時間を邪魔してはいけないかな？と思いそそくさと自分に与えられた寝室に引きこもってしまって、英語が上手な Kim さん夫婦との会話を逸してしまった。愛想が悪くてごめんなさい。

今回はとにかく、PAX メンバー一年生という貴重な経験をさせて頂いたと思っている。今後ますます PAX での市民交流、草の根交流の輪を世界に広げ、争いの無い世界平和に少しでもお役に立てればという思いを強くして帰国して来たのでありました。韓国でお世話になった皆さん！名前が

なかなか覚えられないのですが、本当にありがとうございました。広島に来られたら、しっかりお礼の気持ちを込めてお迎えしたいと思っています。

See You!

お別れの挨拶

WFC 館長 ラリー・シムズ

ジョアンと共にオレゴン州の我が家に帰る時がきました。しかしそれは「さようなら」ということではありません。「さようなら」は再び会うことがないと分かっている人たちが交わす最後の別れを意味するからです。また逢いましょう。

日本そしてワールド・フレンドシップ・センターで過ごした時間はとても楽しいものでした。2011 年に東北大震災、津波、原発事故が起きた直後に来日して以来、原発の安全性に日本が苦悶するのを見ました。また、今までとは違う新しいプロジェクトを企画実施することでセンターが発展していくのを目にしました。個人的に言うと、英会話クラスや旅行を通して日本の文化、歴史、地理、人々について知る素晴らしい機会をいただきました。世界中から来る多くのゲストと出会い、WFC のボランティアと共に様々なプロジェクトを手がけました。物理的財政的限界があるにもかかわらず、能率的にセンターを運営してくれる有能な人たちと働きました。また、理事たちはいつも協力的でした。

私にとって心に残る出来事は以下の通りです。

- ・福島原発事故や日本のエネルギーの将来に関心がある人たちと、核施設での私の経験を交えて話し合いが持てたこと
- ・平和公園で行われたバーバラの碑の除幕式に参加したこと
- ・日本の平和教育及び平和への努力に対する森下先生の多大な貢献を知ることができたこと
- ・シュモアハウス オープン記念セレモニーの企画とシュモアハウスの関係者に会ったこと
- ・マイク・スターン「One World Peace コンサート」の企画と実施
- ・2013 年秋に行われるアメリカ PAX の準備
- ・愉快で探究心溢れた生徒達に英会話を教えたこと
- ・ゲストに国内旅行の情報を提供できたこと
- ・世界中から訪れるゲストと共にした朝食

いろいろな経験をして、そしてたくさんの場所や多くの人たちとの思い出、そして恒久平和と核のない世界を望む思いを胸にアメリカに帰ります。WFCのさらなるご健闘をお祈りします。

今まで持っていた世界観を広げ、アメリカのどんなところに住んでいるのか話をする機会を与えていただいた事に感謝します。



(岡山のカラス城にて:ラリー殿様とジョアン姫)

任期満了の挨拶

WFC 館長 ジョアン・シムズ

ワールド・フレンドシップ・センターに着任してからの一日一日が宝物のようでした。理事会、英会話クラス、ピースクワイヤー、ピースガイドの皆さまには、心より感謝申し上げます。皆さま、そして、一人一人が、いつも親切に温かく接して下さいました。ワールド・フレンドシップ・センターでの任期を終えて帰国の準備をするにあたって、去りゆく寂しさと、国に帰る嬉しさが入り混じり、複雑な思いがいたします。

振り返ってみますと、クリスマスパーティーでは、水戸黄門の寸劇を演じて皆で大笑いしたことや、日本語が読めなかったために、砂糖と塩を間違え、塩バナナケーキを作ってしまう、あまりのおかしさに涙を流しながら大笑いしたこと。あるいは、新年を迎えるため、ワールド・フレンドシップ・センターに飾る“しめ飾り”を買って、なんとも誇らしげに持ち帰ったものの、それはなんと、“車用のしめ飾り”だったこと！すべてが懐かしく思い出されます。日本の伝統・文化に飛び込んで、手探りの状態でしたが、いつも皆さまは親切に接して下さいました。日本語の学習にも挑戦して、ほんの少しですが言葉も覚えました。さらに、こんな可笑しい出来事もありました。ある日、夕食の時間に外から“お経”が聞こえてくるのです。(近所にお寺があるのですが、そこから聞こえるのではないのです。)不思議に思っていました、後で分かったことですが、実はその声は“お経”ではなく、焼き芋屋さんの売り声「石焼きいもー！ やきいもー！ やきたてー！」だったのです！また、広島から足をのばして、別府、三次、島根県の足立美術館、長崎へも行きました。この旅行はとても忘れがたいものとなりました。少し例を挙げるだけでも、オタフクソース工場、造幣局、水族館、動物園、

宮島、熊野の筆の里工房、尾道と、たくさんのワクワクする小旅行もいたしました。この時の皆さまの笑い声と笑顔は、決して忘れることができません。

平和を訴え、なおかつ渡辺朝香さんの夢を託した「One World Peace Concert」の開催に際しては、私たちに信頼を寄せてくださり、ご協力いただきましたこと、感謝申し上げます。また、沖縄平和賞の候補者として森下弘先生を推薦させていただいた際には、皆さまにはご尽力いただきましてありがとうございました。さらには、広島平和記念資料館シュモーハウスの落成にあたりまして、一週間にわたる祝賀行事の運営にご協力いただきましたこと、いま一度、御礼申し上げます。歴史的にも意義深い一週間となった 2012 年 11 月に、17 人の使節団を広島のスモーハウスにお迎えした際にも、皆さまは快く協力して下さいました。2012 年の夏に開催したピース・キャンプでは、飯盒でご飯を炊く方法を教えて下さったおかげで、40 名のキャンプ参加者に、食事を無事に提供することができました。三次市のプロモーション・ビデオに声の出演をする機会をいただいたことも、嬉しく思っております。ワールド・フレンドシップ・センターの移転にむけて、引き続き取り組んでゆくという勇気ある決断には謝意を表します。センターはもうすぐ創立 50 周年を迎えようとしています。また新たな 50 年を、情熱と目標を持って、新しい理事会の枠組みで活動を進めてくださいますことを皆さまに感謝致します。最後に、アメリカ西海岸で開催される、2013 年度 PAX のコーディネイターを務めることを大変光栄に思います。

私達は、バーバラ・レイノルズが掲げる「平和を涵養し、一度に一人ずつ友人を」という理念を実践することを通して、平和のために尽力したいとの思いでワールド・フレンドシップ・センターにやってきました。ボランティア館長であることを通じ、世界中に友人を持つことができました。これからも、ワールド・フレンドシップ・センターに深い係わりのある人々との友情は、とりわけ大切な忘れられない思い出となるでしょう。



(幸運の仏像を造っているラリーとジョアン)

英会話クラスからのメッセージ

金曜日クラス 堀江 壯

私が館長さんご夫妻に初めて会ったのは7年前。PAX の1員として長崎の男性、故山下美枝子さん、私、大学院生の4人で渡米させてもらったときの事。当時お住まいのシアトルで、私達の平和への想いを話す機会をたくさん与えてくださいました。ご子息 Kyle 氏には何度も通訳をしていただきました。一生忘れることの出来ない思い出になっております。

数年後、その御夫妻が館長さんとして赴任してこられるとの事。懐かしさと 嬉しさと……。あっという間の2年間でしたが、お孫さんと一緒に、剣玉で遊んだり、マツダ球場に行ったり、足立美術館を訪ねたり、たくさん思い出が出来ました。

私をご承知のとおりいろいろやっていますので準備もたくさん必要ですが、一番時間をかけたのは金曜日クラス。なにをどんなにしゃべるか考えることはぼけ始めている私の頭に、いい刺激になりました。金曜日クラスは別名、食べるクラス。焼き芋、メンバーが旅してきた時の各地のお土産、季節の果物、etc. よく食べよく笑いましたね。2年間よく食べ笑った成果？で昨年12月からは、ゲストに私の被爆体験を、最初に山根様に通訳して頂いたのを基本にお話できるようになりました。でも難しい質問には私は答えることが出来ません。2年間で何人のゲストをお迎えになったのでしょうか？ 本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

ご帰国後の生活が充実し、お元気にお過ごしされますよう、心よりお祈り申し上げます。

火曜日クラス 原田幸江

火曜日午前のクラスでラリーとジョアンに会って早2年。早いですね。最初の一年は私の病気と家族の病気とトラブルが有り、センターの火曜日クラスに行く事をちゅうちょした事もありました。2年間でどれだけの English Conversation が出来たのか疑問です。しかし、クラスメンバーとのひとときを過ごす事で前進する事もできたかと思っています。三景園、広島美術館の思い出も出来ました。ラリーとジョアンには思い出作りに参加して頂きありがとうございました。一緒に時間を過ごせた事、ありがとうございました。

山岡ミチコさんの死を悼んで

WFC 理事 車地かほり

去る2月2日、長くワールドフレンドシップセンターの理事として活動し被爆乙女として被爆証言を続けられた山岡ミチコさんが82歳で逝去されました。6年以上病院や介護施設で寝たきり状態の末、無くなった事に胸が痛みます。葬儀に館長はじめ多くの理事が出席し



最後のお別れができたのはせめてもの慰めでした。（左から：バーバラ、原田東岷先生、山岡ミチコさん）

思い返せば山岡さんと私は

30年以上にも及ぶ長い付き合いでした。最初にお会いしたのは、センターが翠町にあった頃でした。被爆者の載ったカレンダーをセンターに置かして欲しいと言って来られたのです。その時は、全くの初対面で山岡さんがどんな方なのか知りませんでした。その後、間もなくして山岡さんはセンターの活動に参加されるようになり、理事になられました。山岡さんと親しくなって1~2年後に山岡さんの母上が亡くなりました。山岡さんは被爆後、瓦礫に埋まっていたのをお母さんに助けられ戦後の苦しい時代を母一人子一人で生き抜かれたのです。そのため、母子の絆は強く母上の死は山岡さんにとってどんなにか大きな出来事だったことでしょう。

山岡さんは、それまであまり被爆体験の話をしてこられませんでした。母上の死をきっかけに本格的に体験継承の活動を始める決心をされました。その後の活動は皆さんも良く御存知の事と思います。山岡さんはとても子供好きで大人よりは幼稚園児や小学生に被爆体験を語るのを得意としておられました。山岡さんが平和公園の一隅で幼稚園のグループに話すのを側で観た事がありますが、「山岡さんはね……」といった風な砕けた言い方で生き生きと子供達に語りかけていたのを覚えています。広島を訪れた内外の多くの人達にも証言された事は言うまでもありません。日本各地や外国にも度々行っておられます。そんな中、山岡さんは心臓が悪く、その他いくつも体の不具合を抱えて一人暮らしでしたが、7年前の8月6日の原爆の日に脳梗塞で倒れられました。翌朝友人によって発見されたそうですが、時間が経っていたせいか予後不良でリハビリも困難な状態でした。少し回復されて活動を再開された時期もありましたが病気の再発により、亡くなるまで二度と話される事はありませんでした。理事会の後など、数名で山岡さんを何度も見舞いましたが、いつも清潔にしてもらっていて丁重な介護を受けている様子が伺えました。しかし、山岡さんは言葉が出ない状態で会話によるコミュニケーションが出来なかったのが残念でした。それでも私達が

声をかけたり手を握ったりすると目がこちらを向くのが分かりました。顔の艶が良く目も澄んでいて力がありました。そんな時、山岡さんは言葉にならないどんな想いを胸に懐いていたのでしょうか。彼女との思い出はたくさんあり過ぎて書ききれません。最後に「山岡さん、大変な人生でしたね。お疲れ様でした。天国でお母様とゆっくりして下さい。」と申し上げて追悼の言葉とします。

国際交流奨励賞を受賞

WFC 理事長 山根美智子



ヒロシマ平和創造基金(理事長・川本一之中国新聞社副会長)の国際交流奨励賞表彰式が3月5日、中国新聞ビルであり、私と館長の3人で出席しました。国境を越えて平和創造に貢献しているという事で、WFCを含め3団体に表彰状と副賞の10万円が贈られました。

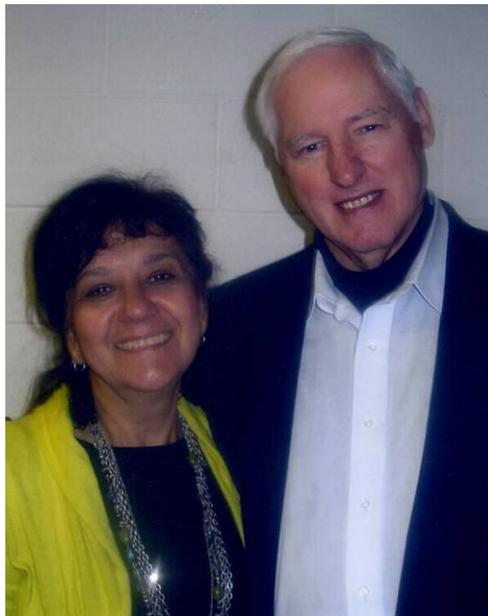
受賞したのは、青年海外協力隊員が国外で原爆展を開いている国際協力機構(JICA)中国国際センター(東広島市)と、旧ソ連時代に核実験が繰り返されてカザフスタンとの交流を重ねている国際交流グループ CANVaS、それにWFCの三団体でした。

JICA の原爆展は、2004年から始まり、CANVaS は2003年に結成されたということで、改めてWFC の歴史の長さを実感しました。48年間の地道な活動が評価され、選考委員の全員一致で決まったと聞き、嬉しくまた誇らしく思う瞬間でした。

新任ディレクターの紹介

WFC 館長 ラリー・シムズ

ワールド・フレンドシップ・センターとアメリカ委員会は2年毎に新しいディレクターを選任しています。アメリカ委員会は探すのに難航しましたが、次期ディレクター夫妻をオハイオから迎えることになりました。彼らはこれからの2年間広島でのボランティアを楽しみにしておられます。



新ディレクターはオハイオ州アクロン郊外のタルマッジ出身のジニア&アリス・ピートリの友達で、ジョアンと私は新ディレクターとWFC 任務について話しました。WFCの仕事に熱心に取り組まれることでしょう。

ジニアは現在スペイン語を教えています。彼女は教師のみならず、教会関連の活動、布教のための旅行、聖書学校での指導や聖歌隊、また地域の団体活動など多くの経験があり、WFCにおいてもこの経験を大いに生かされることでしょう。

リチャードはオハイオ州青少年育成局で青少年保護観察官として働き、退職後は自動車修理工、学校の管理人、スクールバスの運転手などをしてきました。その他、高校レベルの指導やブレザレン・ボランティア・サービスで3回災害支援活動に参加、アメリカから西ドイツまで乳牛の群れを船で連れていく「海を渡るカウボーイ」としてのボランティアを、また教会の仕事、教会学校での指導、聖歌隊などもしてきました。ご夫妻のこれらの豊富な体験と他者を助ける献身的な精神はこれからの2年間WFCでの活動に役立つことでしょう。皆で新館長を歓迎しましょう。

海外初公演「沈黙を破って」

WFC 館長 ジョアン・シムズ

来る8月1日、2日、3日、WFCは朗読劇「沈黙を破って」を広島で開催します。この劇は、日系アメリカ人収容所や日系人が米市民としての地位を獲得するための闘いを描いています。

今年の夏広島では、7月20日から9月1日まで県立美術館で「がまんのアート展」が開催されます。展示されるのは、日系人が収容所時代に作った作品です。「沈黙を破って」は収容所について

語ると同時に、広島の人々に「がまんのアート展」で展示される日系人の芸術作品を更に理解していただく、ピッタリのタイミングとなるでしょう。

2012年10月29日、WFCは広島国際会議場研修室で、ヨシュ中川氏とハーブ土屋氏をお招きし、日系人収容所についてのシンポジウムを開きました。ヨシュさんとハーブさんは収容所経験者であり、広島へはシュモーハウスの開館式典のために来られました。ハーブさんは朗読劇を通じ、日系人の辿った歴史をみなさんに知っていただくために、「沈黙を破って」のキャストとして再び広島に来られます。この劇は1986年以来アメリカ各地で上演されてきました。この夏の日英両言語による広島公演が、この劇の海外初公演となります。WFCの友人であるマイク・スターンも「沈黙を破って」のナレーター兼音楽担当として再びやってきます。マイクさんは、2012年の春、WFC主催で世界平和のために平和祈念聖堂で開催された「One World Peace Concert」のメインシンガーでもありました。

「沈黙を破って」の講演日程は以下のとおりです。

8月1日(木)昼 広島女学院中高等学校

8月2日(金)夜 同上

8月3日(土)昼 広島市留学生会館

お忙しいこととは存じますが、どうぞ万障お繰り合わせの上、多数ご参加くださいますようお願いいたします。詳細につきましては、wfchiroshima@niftyl.comまでお問い合わせください。

2013年アメリカPAX

WFC理事 藤井正一

2013年アメリカPAXの計画は進行中です。この旅行への関心は非常に高く、16名がこのプログラムに応募した。委員会は16名がこの旅行に参加することを許可した。この旅行は3週間でポートランド、オレゴン州周辺、シアトル、ワシントン州周辺とニューメキシコ州のアルバカーキーで証言活動を中心としている。この旅行はユニークです。広島の被爆証言、長崎の原爆が製造されたハンフォード核製造装置、ミニドカと呼ばれる日系米人収容所、そして広島と長崎原爆製造のロスアラモス製造地が含まれている。

この旅行は4名の被爆者(堀江壮さん、河野きよみさん、今田洋子さん、田中健三さん)、被爆者の友人、親戚の証言を語る人、広島復興を語る人、広島と福島被災の関連を語る人と数名の通訳者で構成されている。この旅にはWFCが広島の証言を世界と分かち合うというバーバラ・レイノルズさんの願いを実現する機会がある。また、原爆についての教育的背景を提供し、第二次世界大戦中の収容所の日系米人の経験を聞く機会も含まれる。



(アメリカ、オレゴン州の館長宅に滞在予定)

グループは9月14日出発し、10月5日帰国する。ホームステイ先で大半の宿泊と食事を提供していただく。このグループはシアトル～ハンフォード～ミニドカ～ポートランド、それから、シアトルまで貸し切りバスで移動する。グループはシアトルからニューメキシコへ飛行機で移動し、またシアトルに飛行機で戻ってきます。現館長のジョアンとラリー・シムズがこのアメリカPAXを企画、調整し、米国旅行の全工程を同行する。「シュモーハウス」開館式での広島訪問者、8月広島で朗読劇を公演する「沈黙を破って」の出演者に面会することも予定されている。



2013年アメリカPAX参加者はジョアン、ラリーがオレゴンに帰国する前に集まり、発表グループの計画とホームステイグループの組み合わせを決定します。

(アイダホ州、ミニドカ捕虜収容所の近くにあるツインフォールズ)